
『走りたがり』の色々な話

玄野 洸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『走りたがり』の色々な話

【Nコード】

N4666Z

【作者名】

玄野 洸

【あらすじ】

『と、言つかただの走りたがり』の短編、設定等を載せる予定です。基本的に、不定期更新で行きます。

ある短編。『蟲肉編』（前書き）

”あの”蟲肉の謎、ついに解明!?

……そんな話です。

ある短編。『蟲肉編』

彼は『Laplace社』^{ラプラス}が抱える専属プログラマー。

その功績は数年前にリリースされた『Laplace社』の代表的なMMORPG、クロニクルオンラインの基盤を作り上げたうちの一人である。

もちろん、今回の『Laplace社』初のVRMMORPGの開発にも奥深い部分まで関わっている。

先日の謎の技術提供のおかげで美麗なグラフィック、膨大なデータ量の管理が可能になった。エターナルオンラインに、熱狂的なまでに打ち込んでいた。

そんな中、社内であるイベントが開催された。

それは膨大なデータ量の管理が可能になった故の『モンスター・NPCの増量』についてのアイデア募集だった。

一人が応募する数に上限は無く、募集するのは名前や備考、その他にもイラストといったものだった。

彼は勿論、応募した。

プログラムが本業である彼は、今までそう言った部分に参与した事が無かった。

しかしそう言った部分への関わりはもはや夢のような出来事であり、アイデアは突然掘り当てた温泉の様にとめどなく溢れてきた。彼はプログラム業の傍らで時間を見つけ、手短なA4用紙に手書きで書きこんでいった。PCで打ち込むよりも、その方が自分の思いが文字に現れるような気がしたからだ。

同僚からの「仕事しろよ」の視線は少なくなかったが、楽しげに顔を綻ばせながら書きとめていく彼の姿を見てみると、毒気を抜かれたように生暖かい視線を向けるようになった。

そして一週間後。

社長やデザイナーなど、その他数人で話し合った、採用の結果が出た。

その結果を見て、彼は愕然とした。

彼は三桁に迫るほどの候補を出していたはずだった。

しかし、採用されたのは僅か二つ。

その二つも『幼虫』と『成虫』という一括りにできる二つであったため、事実上一つであるといってもあまり差支えなかった。

彼は分からなかった。

彼はモンスターの所にしか応募していなかったが、その設定はこれらの専門も引きそうなくらいビッシリと書かれたものであり、全てが選ばれても納得できるだけのできだったはずだ。

しかし採用されたのはわずか一つ。

彼はもう考える事をやめたのだった。

彼は生涯気付く事は無いのだが、その理由は趣味のマニアックさ故だ。彼が出したアイデアの中で約九割を占めるのが、一般人はどれ一つとつても知りえないであろうマイナーすぎる『昆虫』をモデルにしたものであり、審査員たちは一瞥しただけでそれを落選の方へと仕分けたのだった。

残りの一割は辛うじて知りえる物があつたのだが、それはもうすでに採用されているアイデアとして出てしまっており、採用できるのは全く無かった。

しかし彼がアイデアを書きとめて行く姿を見ていた者が僅かに一人、その場に居た。その事を他の審査員に話すと、満場一致で「一つくらいなら良いだろう」という事になり、例のモノがくじ引きで選ばれたのだった。

彼はそのあと、周りの同僚が一日に二桁を超えかねないほどに「お前、もう休め」と言われる位の仕事ぶりを見せつけた。

そして、程なくして完成。

ここに、エターナルオンライン という新たな世界が産声を上げたのだった。

そして彼は、一つ仕返しともとれる奇怪な行動を起こした。

採用された《デスポイズン・キャタピラ》と《デスポイズン・ビー》は低Lvフィールド、高Lvフィールドのどちらにも出現するモンスターだ。

そしてその低Lvフィールドの方に出現する《デスポイズン・キャタピラ》と《デスポイズン・ビー》は、《黒紫の虫肉》という見た目毒アイテムのネタ食料アイテムをドロップする。

彼は何故かこの《黒紫の虫肉》を高Lvフィールドにドロップする《黒紫の虫肉》に変更した。何故か食料アイテムの旨味値を最大限に引き上げたうえで。

この行為により、エターナルオンラインの世界からは《黒紫の虫肉》というアイテムは完全に消滅した。データの上書きにより、無くなってしまったのだ。

そして次に彼は、兼ねてから用意していた新たな【能力】を手元のメモリー経由で世界へとインストールさせ、産み落としたのだ。

これらが行われ、そして終了したのがオープンテストの開始前の、僅か七分前。

気がついた者はおらず、もし仮に気が付いていたとしてもそれらを戻すことは不可能だっただろう。

そして世界は動きだした。
開発者の知識と理解を超えた、現実とは比べ物にならない速度で。

彼の行動を知る”人間”は誰一人いない。……彼を、除いて。
そして彼の行動の意味を知る”人間”は誰一人いない。……そう、
彼を、除いて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4666z/>

『走りたがり』の色々な話

2011年12月15日21時45分発行